

石器組成からみた弥生人の生業行動パターン

酒 井 龍 一

はじめに

本稿は、西日本各地における代表的な弥生時代の集落遺跡から出土した石器類（石包丁・太型蛤刃石斧・柱状片刃石斧・扁平片刃石斧）に焦点をあて、その数と組成率を観察することにより、初期農耕社会形成期における生業活動の地域的個性を把握するのが目的である。

近畿地方中央部の様相

池上遺跡石器類の検討

まず、標準的な拠点集落遺跡で広範囲に発掘がなされ、かつ多くの石器類を出土した遺跡を観察・検討し、分析の見通しをつけておくのが合理的であろう。ついてはその条件にみあう大阪・池上遺跡とその石器類をとりあげる。

石包丁と石斧類の出土数

第二阪和国道と池上小学校用地内の発

掘で、石包丁一六七一点・石斧類四二五点（太型蛤刃二四三点・柱状片刃一一三点・扁平片刃六九点）の計二〇九六点を数える。

組成率 その組成率は、石包丁七九・七％、石斧類二〇・三％

（太型蛤刃一一・六％、柱状片刃五・四％、扁平片刃三・三％）、また石包丁に対する蛤刃石斧は一四・五％となる（第3図 池上）。

資料の数と組成率の関係 発掘による石器資料が増加するに伴っ

て、組成率がどのように変動するのだろうか。そこで例えば、池上小

学校用地内（石包丁と石斧類の数九七点）・第二阪和国道内発掘中間

時点（八五三点）・同終了時点（二一六〇点）という桁数を異にする

三回の集計時における各組成比を比較してみよう。その結果、三者と

も、石包丁八一・八三％、石斧類一七・一九％（太型蛤刃九・一二％、

柱状片刃二・五％、扁平片刃三・七％）、また石包丁に対する蛤刃石

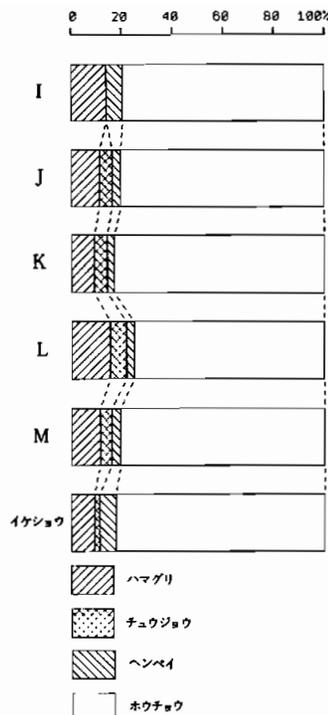
斧一一・一五％の数値を示し、その偏差は大きくない。この現象は、

石器数が九七点程度でもそれを大きく越えても基本的な組成率に近い

数値を示している、と理解できる。

必要最小限の資料数

基本的な組成率を把握するに必要な最少限



第1図 池上遺跡各地区の石器組成

の資料数をここでただちに提示できないとしても、先の事例や後に紹介する各地の事例を考慮して、五〇〜一〇〇点程度あればある程度の信頼性をもってデータとして認めうるだろう。ただし、五〇点前後にとどまれば、同地域・同時代・同性格と推定できる他遺跡の石器類と比較・検討して信頼度を高める作業が必要となる。

出土地点と組成率の関係 一遺跡内の出土地点の違いが石器類の組成率に重大な差をうみだすのか。例えば、第二阪和国道内のI地区（石包丁と石斧類一二二点）・J地区（三六七点）・K地区（二五九点）・L地区（一〇四点）・M地区（八一四点）、そして池上小学校内（九七点）出土の六石器群を比較してみよう（第1図）。その結果、いずれも、石包丁七五〜八三％、石斧類一七〜二五％（大型蛤刃九〜一六％、柱状片刃四〜七％、扁平片刃〇〜四％）、また石包丁に対する大型蛤刃石斧一〜二二％とかなり似た数値を示し、かつ全体の組

成率とも共通する。池上遺跡においては、出土地点が違ってもその組成率に重大な差は生じていない。

石器類の廃棄パターン 出土地点が違ってもその組成率に重大な

差が生じない現象は、後世の遺跡削平による原状変更等を考慮しても、集落内における各地点での石包丁と石斧類の廃棄パターンが共通していたことを示唆する。すなわち、特定の石器類が特定の集落内部の間に廃棄された可能性は少なく、ランダムであったと判断できる。

資料の質と組成率の関係 考古資料の質は、遺構から出土し所属

時代の明確なものを「良」とし、そうでないものを「不良」とする。

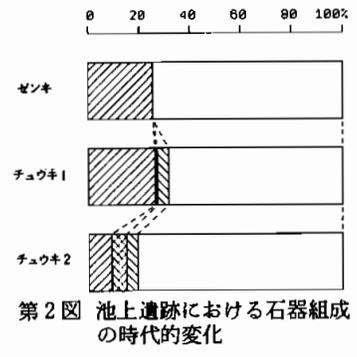
そこで、池上遺跡を特徴づける大溝等から出土し所属時代の明らかない石器類四五点での組成率と、包含層やその他後世の土層等からのものも多数含む石器全体での組成率と比較する。その結果、前者は、石包丁七七・四％、石斧類二二・六％（大型蛤刃一四・九％、柱状片刃四・〇％、扁平片刃三・七％）、また石包丁に対する蛤刃石斧一九・三％で、各石器とも後者と共通する数値を示す。資料の「良」「不良」にかかわらず、基本的な組成率を把握するのに有効となる。

石包丁と石斧類の基本的な組成率 以上のような検討を踏まえて、

池上遺跡における基本的な組成率は次のように理解できる。(a) 石包丁が八割・石斧類が二割程度で、石包丁が圧倒的に多い。(b) 石斧類のなかでは大型蛤刃が過半数で、残りを柱状と扁平の片刃類で分ける。(c) 石包丁に対する蛤刃石斧は一割五分前後である。

時代による組成率の変化

ここまでは時代を無視して出土石器全体（第一～四様式）の観察をおこなってきた。次いで、時代による組成率の変化があるのかを観察してみよう（第2図）。弥生時代前期



第2図 池上遺跡における石器組成の時代的变化

（第一様式）の石器は三一点で、資料としての信頼度は高い点数にとどまる。一応の組成率は、石包丁七四・二％、石斧類二五・八％（太型蛤刃二五・八％、片刃石斧類〇％）、また石包丁に対する太型蛤刃石斧三四・八％の数値をえる。出土石器全体と比べて、片刃石斧類がなく

太型蛤刃斧が一四・二％高い数値を示す。続いて、中期初頭（第二様式）の石器は一一三点あり、この数は資料として信頼がおける。組成率は、石包丁六八・一％、石斧類三一・九％（太型蛤刃二六・五％、柱状片刃〇・九％、扁平片刃四・四％）、また石包丁に対する蛤刃石斧三九・〇％となる。全体での組成率と比べて蛤刃石斧が一四・九％高く、前期と似た現象を示す。中期中頃～末（第三～四様式）のものは二九三点あり、組成率は、石包丁七九・九％、石斧類二〇・一％（太型蛤刃一〇・二％、柱状片刃五・八％、扁平片刃四・一％）、また石包丁に対する太型蛤刃石斧二二・八％となり、全体と比べ片刃類の率が高くなるとともに、蛤刃石斧が数少ない数値となる。これは、前

期および中期初頭とは異なる傾向である。これらを考えあわせると、弥生時代前期～中期初頭においては太型蛤刃石斧の比率が中期中頃～末と比較して一三～一四％程度高かった可能性を認めることができよう。ついで、後で前期単純の兵庫・上ノ島遺跡にて同じ傾向があることを紹介し、その傍証とする。

単位面積あたりの石器数

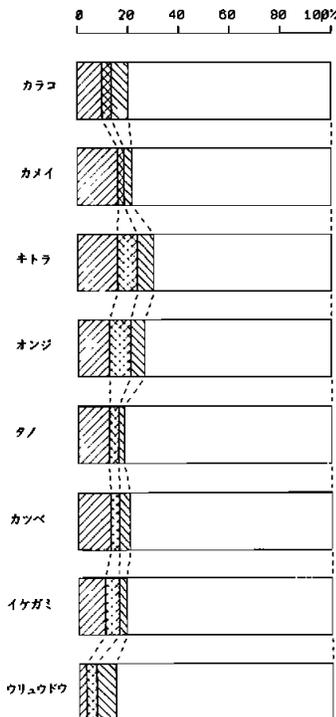
幅約四〇mの第二阪和国道用地内で、北端NQ地区～南端GH地区の間約四七〇m、面積にして約一八八〇平方mに石包丁と石斧類の出土がある。ここでの石包丁は一五九一点なので、単位面積あたりの出土数は〇・〇八四六六／平方mの数値をえる。同様に、太型蛤刃石斧二三四点は〇・〇二二四／平方m、柱状片刃石斧一一一点は〇・〇〇五九点／平方m、そして扁平片刃石斧六三点は〇・〇〇三四点／平方mの各数値をえることになる（第7図）。

遺跡全体での分布範囲

先にあげた第二阪和国道内NQ地区、同GH地区、そして池上小学校用地内七区に石器類の分布範囲各端がある。これら三個所を結ぶことにより、池上遺跡東半部におけるおおよその分布範囲をつかめる。それぞれは、池上遺跡を特徴づける東西三〇〇m・南北三五〇m程度の「環壕」の外側一〇〇～一五〇m前後に及ぶとみてよい。この状況を遺跡西半部に適応することが許されれば、全体では東西四〇〇m・南北五〇〇m程度、面積にして一五～一六万平方m程度の分布範囲を想定しうる。

遺跡全体での石器総数

これまで石包丁は〇・〇八四六六／平方



第3図 畿内諸遺跡の石器組成

mの出土があり、推定分布範囲が一五〇一六万平方mなので、遺跡全体では総数一二六九〇〜一三五三六程度の出土が概算期待される。同様に、大型蛤刃石斧〇・〇〜二四点/平方mは総数一八六〇〜一九八四点、柱状片刃石斧〇・〇〜五九点/平方mは総数八八五〜九四一点、そして扁平片刃石斧〇・〇〜三四点/平方mは総数五一〇〜五四四点がそれぞれ概算期待されることになる(第8図)。

畿内主要遺跡石器類の組成率

資料として信頼できる程度の石器数を出土させた畿内地域の七個所の標準規模の拠点集落遺跡を例示し、その石器組成率を先の池上遺跡のそれと比較する(第3図)。

奈良・唐古遺跡 石包丁一一〇点・石斧類二八八点(大型蛤刃一四点・柱状片刃五点・扁平片刃九点)の計一三八点が出土し、その組成

率は、石包丁七九・七%、石斧類二〇・三% (大型蛤刃一〇・一%、柱状片刃三・六%、扁平片刃六・五%)、また石包丁に対する蛤刃石斧は一二・七%となる。各数値とも池上遺跡における基本的な組成率とほぼ一致する。

大阪・亀井遺跡 石包丁二七〇点・石斧類七五五点(大型蛤刃五六点・柱状片刃九点・扁平片刃一〇点)の計三四五点が出土し、その組成率は、石包丁七八・三%、石斧類二二・七% (大型蛤刃一六・二%、柱状片刃二・六%、扁平片刃二・九%)、また石包丁に対する蛤刃石斧二〇・七%となる。蛤刃石斧の率が数%高い傾向にあるとしても、池上遺跡・唐古遺跡のそれとほぼ共通する。

大阪・鬼虎川遺跡 石包丁一九七点・石斧類八六六点(大型蛤刃四五点・柱状片刃二二点・扁平片刃一九点)の計二八三点が出土し、その組成率は、石包丁六九・六%、石斧類三〇・四% (大型蛤刃一五・九%、柱状片刃七・八%、扁平片刃六・七%)、また石包丁に対する蛤刃石斧二二・八%となる。石斧類の率が一〇%程度高いとしても、基本的な構成は池上遺跡等とほぼ共通する。

大阪・恩智遺跡 石包丁五三三点・石斧類一九九点(大型蛤刃九点・柱状片刃六点・扁平片刃四点)の計七三二点で、組成率は、石包丁七三・六%、石斧類二六・四% (大型蛤刃一二・五%、柱状片刃八・三%、扁平片刃五・六%)、また石包丁に対する蛤刃石斧一七・〇%となる。石斧類の率が少し高いとしても、各数値とも池上遺跡等と共通する。

兵庫・田能遺跡 石包丁三三八点・石斧類七七七点(太型蛤刃五三
点・柱状片刃一五五点・扁平片刃九点)の計四一五五点を数え、組成率は、
石包丁八一・四%、石斧類一八・六%(太型蛤刃二・八%、柱状片
刃三・六%、扁平片刃二・二%)、また石包丁に対する蛤刃石斧一五・
七%となる。各数値とも池上遺跡等と共通する。

兵庫・勝部遺跡 石包丁二〇三点・石斧類五三三点(太型蛤刃三四
点・柱状片刃八二点・扁平片刃一一点)の計二五六点が出土し、組成率
は、石包丁七九・三%、石斧類二〇・七%(太型蛤刃一三・三%、柱
状片刃三・一%、扁平片刃四・三%)、また石包丁に対する蛤刃石斧
一六・七%となる。各数値とも池上遺跡等と共通する。

大阪・瓜生堂遺跡 石包丁一〇三点・石斧類一八八(太型蛤刃四
点・柱状片刃五五点・扁平片刃九点)の計二二二点があり、組成率は、
石包丁八五・一%、石斧類一四・九%(太型蛤刃三・三%、柱状片刃
四・一%、扁平片刃七・四%)、また石包丁に対する蛤刃石斧は三・
九%となる。他遺跡と比べて、太型蛤刃石斧が一〇%程度少ないこと
で特徴がある。他遺跡の平均比率は一六・〇%で、これに準拠すると
これまで二六本程度の出土するのが一般的である。

近畿地方中央部における一般部な組成率

以上、池上遺跡と七個所の代表的な拠点集落遺跡をとりあげ、その
石器組成率を観察した結果、次のようなことが把握できた。

1、瓜生堂遺跡をのぞく六個所の遺跡の組成率は、石包丁六九・八
二%・石斧類一八・三二%(太型蛤刃一〇・一七%、柱状片刃二・九
%、扁平片刃二・七%)、また石包丁に対する蛤刃石斧は一二・二三
%、といずれも大差のない数値を示し、基本的に共通する石器組成率
をもっていると判断できる。

2、その平均組成率は、石包丁七八・八%、石斧類二一・二%(太
型蛤刃一二・六%、柱状片刃四・九%、扁平片刃三・六%)、また石
包丁に対する蛤刃石斧は一六・〇%となる。

3、各数値は先の池上遺跡の組成率、石包丁七九・七%、石斧類
二〇・三%(太型蛤刃一・六%、柱状片刃五・四%、扁平片刃三・
三%)、また石包丁に対する蛤刃石斧一四・五%、という数値にいず
れも基本的に共通する。

4、以上の観察を踏まえて、近畿地方中央部の拠点集落遺跡の一般
的な石器組成率を、

(a) 石包丁が八割・石斧類が二割程度で、石包丁が圧倒的に多
い。

(b) 石斧類のなかでは太型蛤刃が過半数を占め、残りを柱状と扁
平の片刃類で分ける。

(c) 石包丁に対する蛤刃石斧は一割六分前後である。
と理解することが可能となる。

組成率の時間的な変化

長期にわたる拠点集落遺跡とは別に時代の限定される事例をあげ、池上遺跡でみられた変化と相対させておく。ただし、有効な遺跡は少なく、現時点で二遺跡を例示するにとどまる。

兵庫・上ノ島遺跡

弥生時代前期の単純遺跡で、石包丁二一点・

石斧類八点（太型蛤刃六点・柱状片刃一点・扁平片刃一点）の計十九点が出土した。信頼できる程度の資料数にいたらないが、前期の単純遺跡としては唯一の事例である。一応の組成率は、石包丁五七・九％、石斧類四二・一％（太型蛤刃三一・六％、柱状片刃五・三％・扁平片刃五・三％）、また石包丁に対する蛤刃石斧は五四・五％となる。蛤刃石斧が全体の三割強で、石包丁の半数強となる。これは、蛤刃が全体の二割五分強、石包丁の三割五分～四割をしめた池上遺跡における前期～中期初頭と似た傾向を示す。

大阪・栄の池遺跡

中期中頃～中期末の遺跡で、石包丁八五点・

石斧類三一点（太型蛤刃一三点・柱状片刃一〇点・扁平片刃八点）の計一六点が出土した。組成率は、石包丁七三・三％、石斧類二六・七％（太型蛤刃八・六％、扁平片刃六・九％）、また石包丁に対する蛤刃石斧は一五・三％となる。前期と比べて蛤刃石斧が少なく全体の一割程度となり、また石斧類のなかでも片刃類が過半数を越える等、池上遺跡における中期中頃～末の様相と共通する。

池上遺跡をあわせわずか三事例にすぎず、かつ資料数も信頼のおける程度になく、バラツキが大きい数値をえたとしても、おおまかに次のような時間的変化の傾向を把握できる。

1、弥生時代前期および中期初頭では、石包丁が六割～七割前後・石斧類が三～四割前後で、石包丁が多い。また蛤刃石斧が全体の二割五分～三割程度、石包丁の三割五分～五割五分程度にのぼり、石斧類のなかでは片刃類より蛤刃が圧倒的に主体を占める。

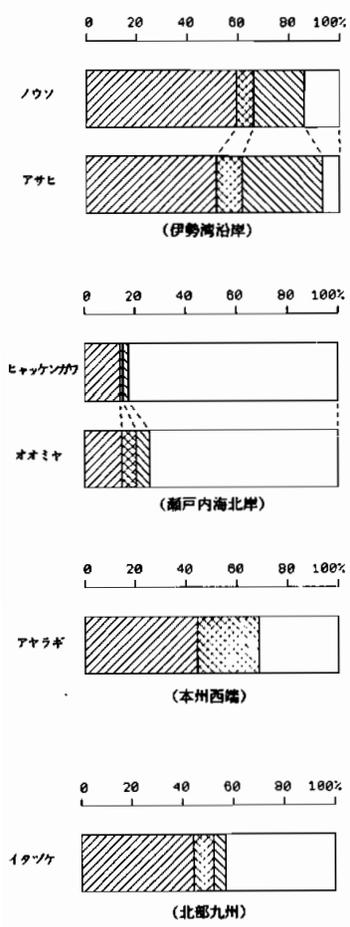
2、弥生時代中期中頃～末には、石包丁が七割～八割程度・石斧類が二割～二割七分程度で、石包丁が多い。また蛤刃石斧は全体の二割程度、石包丁の一割～一割五分程度に少なくなる。石斧類のなかでは蛤刃より片刃類のほうが過半数を越えるようになり、その主体が逆転する。

伊勢湾沿岸地方の様相

納所遺跡石器類の検討

この地方における代表的な拠点集落遺跡で、広範囲に発掘された三重・納所遺跡をとりあげる。

石包丁と石斧類の出土数 県道曇林院・津線バイパス建設にかかわる発掘調査で、石包丁四五点・石斧類二八二点（太型蛤刃一九五点・



第4図 西日本各地諸遺跡の石器組成

刃一一点の計六三点が確認されており、その組成率は、石包丁四・八%、石斧類九五・二%（大型蛤刃七四・六%、柱状片刃三・二%、扁平片刃一七・五%）、また石包丁に対する蛤刃石斧は一五六・七%となる。全体からそれらの前期のものを差引いた残りの石器類（中期が主体となる）での組成率と比べて、更に大型蛤刃石斧の比率が大きい数値を示す。

遺跡全体での分布範囲 これまでの試掘調査と県道バイパス用地内の発掘調査で、東西三五〇m、南北四〇〇m、面積にして一一一

石包丁3点・石斧類六〇点（大型蛤刃四七点・柱状片刃二点・扁平片刃一一点）の計六三点が確認されており、その組成率は、石包丁四・八%、石斧類九五・二%（大型蛤刃七四・六%、柱状片刃三・二%、扁平片刃一七・五%）、また石包丁に対する蛤刃石斧は一五六・七%となる。全体からそれらの前期のものを差引いた残りの石器類（中期が主体となる）での組成率と比べて、更に大型蛤刃石斧の比率が大きい数値を示す。

柱状片刃二二点・扁平片刃六五点）の計三二七点が出土した。組成率 その組成率は、石包丁一三・八%、石斧類八六・二%（大型蛤刃五九・六%、柱状片刃六・七%、扁平片刃一九・九%）、また石包丁に対する蛤刃石斧は四三三・三%となる（第4図）。単位面積あたりの出土数 幅約二五m、長さ約四〇〇m、面積にして約一万平方米程度の範囲から石器類の出土がある。ここからの石包丁は四五点なので、単位面積あたりの出土数は〇・〇〇四五点/平方mの数値をえる。同様に、大型蛤刃石斧一九五点は〇・〇一九五点/平方m、柱状片刃石斧二二点は〇・〇〇二二点/平方m、そして扁平片刃石斧六五点は〇・〇〇六五点/平方m、の各数値をえることになる（第7図）。

二万平方米程度の弥生時代の遺物包含層の範囲がしられ、遺跡中央部を貫通するバイパス用地内ではA地区〜J地区のすべてから石器類の出土をみている。この面積を遺跡全体の石器分布範囲とみてよいだろう。遺跡全体での石器総数 これまで石包丁は〇・〇〇四五点/平方mの出土があり、推定分布範囲が一〜二万平方米なので、遺跡全体では総数四九五〜五四〇点程度の出土が概算期待される。同様に、大型蛤刃石斧〇・〇一九五点/平方mは総数二一四五〜二三四〇点、柱状片刃石斧〇・〇〇二二点/平方mは総数二四二〜二六四点、そして扁平片刃石斧〇・〇〇六五点/平方mは総数七一五〜七八〇点程度の出土数がそれぞれ概算期待されることになる（第8図）。

主要遺跡石器類の組成率

納所と同様の拠点集落遺跡で、かつ資料として有効な数の石器類を出土した遺跡例は、愛知・朝日遺跡群一個所をあげるにとどまる（第4図）。

愛知・朝日遺跡群 一般国道三〇二号線建設にともなう発掘調査で、石包丁二五・石斧類三六・三三（太型蛤刃二〇〇点・柱状片刃四〇点・扁平片刃一二三）の計三八八点が出土し、その組成率は、石包丁六・四％、石斧類九三・六％（太型蛤刃五一・五％、柱状片刃一〇・三％、扁平片刃三一・七％）、また石包丁に対する蛤刃石斧八〇〇・〇％となる。

伊勢湾沿岸地方における一般的な組成率

以上、発掘調査が大規模に行なわれてきた二個所の代表的な拠点集落遺跡をとりあげ、その石器組成率を観察した結果、次のようなことが把握できた。

1、二個所とも、石包丁一三・八と六・四％、石斧類八六・二と九三・六％（太型蛤刃五九・六と五一・五％、柱状片刃六・七と二〇・三％、扁平片刃一九・九％）、また石包丁に対する蛤刃石斧四三三・三と八〇〇・〇％、という数値を示し、おおまかには似た傾向の石器組成率をもっているとみてよい。

2、それを踏まえて、伊勢湾沿岸地方の拠点集落遺跡の一般的な石器組成率を、

- (a) 石包丁が一割・石斧類が九割程度で、石斧類が圧倒的に多い、
- (c) 石斧類のなかでは太型蛤刃が過半数をしめ、残りを片刃類で分ける、
- (b) 片刃類の石斧では扁平が主体をしめ、その数は柱状の三倍程度である、
- (d) 石包丁に対する蛤刃石斧はおおよそ四〜八倍程度である、
- (e) これらの構成は、近畿地方中央部のそれと基本的にことなる、と理解することができる。

瀬戸内海沿岸地方の様相

主要遺跡石器類の組成率

資料として信頼できる程度の石器類を出土させた三個所の拠点集落遺跡を例示し、その組成率を観察する（第4図）。

岡山・百間川遺跡 今谷・兼基では、石包丁七五・五と石斧類一六六・一と一三三・三（太型蛤刃一三・三と柱状片刃二・二）の計九一点が出土し、組成率は、石包丁八二・四％、石斧類一七・六％（太型蛤刃一四・三％、柱状片刃一・一％、扁平片刃二・二％）、また石包丁

に対する蛤刃石斧は一七・三％となる。

広島・大宮遺跡　石包丁六八点・石斧類二四点（太型蛤刃一四
点・柱状片刃五点・扁平片刃五点）の計九二点が出土し、組成率は、
石包丁七三・九％、石斧類二六・一％（太型蛤刃一五・二％、柱状片
刃五・四％、扁平片刃五・四％）、また石包丁に対する蛤刃石斧は
二〇・六％となる。先の百間川遺跡と共通する。

山口・綾羅木郷遺跡　石包丁二八点・石斧類六二点（太型蛤刃四
〇点・片刃類二二点）の計九〇点が出土し、組成率は、石包丁三一・
一％、石斧類六八・九％（太型蛤刃四四・四％、片刃類二四・四％）、
また石包丁に対する蛤刃石斧は一四二・九％となる。この構成は百間
川・大宮遺跡とも大きく異なる。

瀬戸内海沿岸地方における一般的な組成率

以上、三個所の拠点集落遺跡をとりあげ、その石器組成率を観察し
た結果、次のようなことが把握できた。

1、百間川と大宮遺跡の各数値は共通し、基本的に同じ石器組成率
をもつ。

2、その組成率は、

(a) 石包丁が七〜八割・石斧類が二〜三割程度で、石包丁が圧倒
的に多い、

(b) 石斧類のなかでは太型蛤刃が過半数をしめ、残りを柱状・扁

平の片刃類で分ける、

(c) 石包丁に対する蛤刃石斧は二割前後、
である。

3、この構成は先の近畿地方中央部のそれにはほぼ共通し、伊勢湾沿
岸地方のそれとは基本的にことなる。

4、(a) 石包丁が三割・石斧類七割程度で、石斧類が圧倒的に多い、
(b) 石斧類では太型蛤刃が過半数で、残りを柱状と扁平の片刃類
で分ける、

(c) 石包丁に対する蛤刃石斧は一割強となる、
という綾羅木郷遺跡での構成は、近畿地方中央部・伊勢湾沿岸・
瀬戸内海沿岸の各地方と基本的にことなり、むしろ後で紹介する
北九州地方のそれと共通する。

北九州地方の様相

板付遺跡石器類の検討

近畿地方中央部を代表させた池上遺跡、あるいは伊勢湾沿岸地方を
代表させた納所遺跡等と対比すべく、北九州を代表させて福岡・板付
遺跡をとりあげる。

石包丁と石斧類の出土数　市宮住宅や板付会館等用地内の発掘で、

石包丁一五六点・石斧類二〇五点（太型蛤刃一六〇点・柱状片刃二八
点・扁平片刃一七点）の計三六一点を数える。

組成率 その組成率は、石包丁四三・二％、石斧類五六・八％
（太型蛤刃四四・三％、柱状片刃七・八％、扁平片刃四・七％）、また
石包丁に対する蛤刃石斧は一〇二・六％となる（第4図）。

単位面積あたりの出土数 約五二七〇平方mの発掘でそれらが出
土した。そこで、石包丁一五六点は〇・〇二九六六／平方m、太型蛤刃
石斧一六〇点は〇・〇三〇四／平方m、柱状片刃石斧二八点は〇・〇
〇五三三／平方m、そして扁平片刃石斧一七点は〇・〇〇三二二／平
方mの各数値をえる（第7図）。

遺跡全体での分布範囲 これまでの発掘から、板付遺跡を特徴ず
ける環溝を核とする東西二〇〇m、南北六〇〇m程度、面積にして一
二〜三万平方m程度に石器類の分布が推定される。

遺跡全体での石器総数 これまで石包丁は〇・〇二九六六／平方
mの出土があり、推定分布範囲が一二〜三万平方mなので、遺跡全
体では総数三五五二〜三八四八程度程度の出土が概算期待される。同様
に、太型蛤刃石斧〇・〇三〇四／平方mは三六四八〜三九五二点程
度が、柱状片刃石斧〇・〇〇五三三／平方mは六三六〜六八九点程
度、扁平片刃石斧〇・〇〇三二二／平方mは三八四〜四一五点程度
が、それぞれ概算期待されることになる（第8図）。

時代による組成率の変化 ここまでは時代を無視して出土石器類

全体を観察してきた。そこで、時代による変化の傾向を把握すべく、
三個所の発掘区を比較しておく。市宮住宅第一区ではほぼ前期に比定
される石器類の出土があり、石包丁二二点・石斧類六四四点（太型蛤刃
五五五点・柱状片刃七点・扁平片刃二点）の計八六六点を数える。組成率
は、石包丁二五・六％、石斧類七四・四％（太型蛤刃六四・〇％、柱
状片刃八・一％、扁平片刃二・三％）、また石包丁に対する蛤刃石斧
は二五〇・〇％となる。市宮住宅第二区では前期〜後期の土器等とと
もに、石包丁八六六点・石斧類三三三点（太型蛤刃二二点・柱状片刃二点・
扁平片刃〇点）の計一〇九九点が出土した。組成率は、石包丁七八・九
％、石斧類二一・一％（太型蛤刃一九・二％、柱状片刃一・八％、扁
平片刃〇％）、また石包丁に対する蛤刃石斧は二四・四％の数値をえ
る。同様に、板付会館用地内でも前期〜後期の土器等と、石包丁八六
点・石斧類七九点（太型蛤刃五三三点・柱状片刃一三三点・扁平片刃一三
点）の計一六五五点が出土している。組成率は、石包丁五二・一％、石
斧類四七・九％（太型蛤刃三三・一％、柱状片刃七・九％、扁平片刃
七・九％）、また石包丁に対する蛤刃石斧は六一・六％となる。前期
の主体の地区では石包丁より太型蛤刃石斧のほうが多数であるのに対
して、それ以降のものが多く混じるとそれが逆転する傾向を示す。

北九州地方における一般的な組成率

この地方を代表する拠点集落の事例として板付遺跡一個所をあげた

にすぎないが、その組成率について次のことを把握できた。

1、組成率は、

(a) 石包丁が四割・石斧類が六割程度で、石斧類のほうが多い、

(b) 石斧類のなかでは太型蛤刃が過半数をしめ、残りを柱状と扁平の片刃類で分ける、

(c) 石包丁と蛤刃石斧とは同数程度である、
となる。

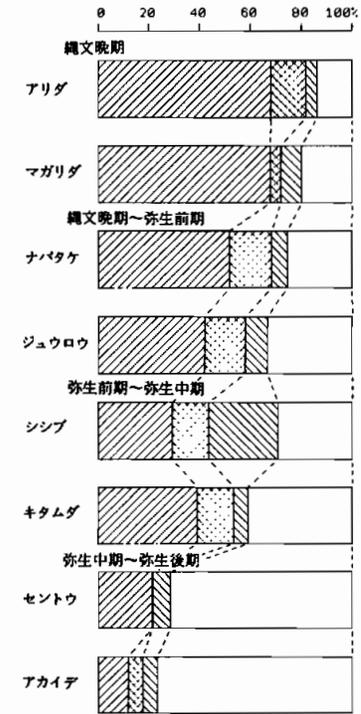
2、この構成は、先の近畿地方中央部・伊勢湾沿岸・瀬戸内海沿岸の各地方における主な拠点集落遺跡でのいずれとも基本的にことなる。

3、縄文時代晩期～弥生時代後期という長期の集落遺跡の出土石器類全体ではそのような組成率になるとしても、後に提示するように、そこには時代毎による大きな組成率の変化をふくみこんでいる。

諸遺跡石器類の組成率

北九州地方には所属時代の確定できる石器資料がかなりみられ、時代による組成率の変化を把握するのに都合がよい。各遺跡とも資料数はかならずしも多くないが、縄文時代晩期～弥生時代後期における各時代の代表的な八遺跡を例示し、変化の基本的な流れを観察しておく(第5図)。

福岡・有田七田前遺跡 縄文時代晩期の石器群で、石包丁三点・石斧類一九点(太型蛤刃一五点・柱状片刃三点・扁平片刃一点)の計



第5図 北部九州における石器組成の時代的变化

二二点を数える。組成率は、石包丁一三・六%、石斧類八六・四% (太型蛤刃六八・二%、柱状片刃一三・六%、扁平片刃四・五%)、また石包丁に対する蛤刃石斧は五〇〇・〇%となる。蛤刃石斧の数が全体の過半数をしめ、石包丁の五倍にのぼる。

福岡・曲田遺跡

縄文時代晩期の石器群で、石包丁一五点・石斧類六〇点(太型蛤刃五一点・柱状片刃三点・扁平片刃六点)の計七五

点を数える。組成率は、石包丁二〇・〇%、石斧類八〇・〇% (太型蛤刃六八・〇%、柱状片刃四・〇%、扁平片刃八・〇%)、また石包丁に対する蛤刃石斧は三四〇・〇%となる。有田七田前遺跡と同様、蛤刃石斧が全体の過半数を越え、また石包丁の三・四倍にものぼる。

佐賀・菜畑遺跡

縄文時代晩期～弥生時代前期の石器として、石包丁二〇点・石斧類五九点(太型蛤刃四一点・柱状片刃一三点・扁平片刃五一点)の計七九点を数える。組成率は、石包丁二五・三%、石斧

類八四・七% (太型蛤刃四二・七%、柱状片刃一三・三%、扁平片刃八・七%)となる。

類七四・七％（太型蛤刃五一・九％、柱状片刃一六・四％、扁平片刃六・三％）、また石包丁に対する蛤刃石斧は二〇五・〇％となる。蛤刃石斧が全体の半数強で、石包丁の約二倍となる。

福岡・十朗川遺跡

縄文時代晩期～弥生時代前期の石器に、石包丁一九九点・石斧類三七点（太型蛤刃二四点・柱状片刃九点・扁平片刃四点）の計五六点がある。組成率は、石包丁三三・九％、石斧類六六・一％（太型蛤刃四二・九％、柱状片刃一六・一％、扁平片刃七・一％）、また石包丁に対する蛤刃石斧一二六・三％となる。蛤刃石斧は全体の半数弱で、また石包丁の約一・三倍となる。

福岡・鹿部山遺跡

弥生時代前期～中期の石器には、石包丁一四二点・石斧類三四点（太型蛤刃一四二点・柱状片刃七点・扁平片刃一三二点）の計四八二点がある。組成率は、石包丁二九・二％、石斧類七〇・八％（太型蛤刃二九・二％、柱状片刃一四・六％、扁平片刃二七・一％）、また石包丁に対する蛤刃石斧は一〇〇・〇％となる。蛤刃石斧は全体の三割程度で、また石包丁と同数である。

福岡・北牟田遺跡

弥生時代前期～中期の石器類で、石包丁三七二点・石斧類五三二点（太型蛤刃三三二点・柱状片刃一三二点・扁平片刃五三二点）の計九〇四点がある。組成率は、石包丁四一・一％、石斧類五八・九％（太型蛤刃三八・九％、柱状片刃一四・四％、扁平片刃五・六％）、また石包丁に対する蛤刃石斧は九四・六％となる。石包丁と蛤刃石斧が共に全体の四割前後で、ほぼ同数である。

佐賀・千塔山遺跡

弥生時代中期～後期の石器類で、石包丁二〇二点・石斧類八二点（太型蛤刃六二点・柱状片刃〇点・扁平片刃二点）の計二八四点がある。資料としての数は不十分である。一応の組成率は、石包丁七一・四％、石斧類二八・六％（太型蛤刃二二・四％、柱状片刃〇％、扁平片刃七・二％）、また石包丁に対する蛤刃石斧は三〇・〇％となる。蛤刃石斧は全体の約二割で、石包丁の三割にあたる。

福岡・赤井手遺跡

弥生時代中期～後期の石器類で、石包丁一三二点・石斧類四二点（太型蛤刃二二点・柱状片刃一点・扁平片刃一点）の計一七四点がある。資料としての数は少ない。一応の組成率は、石包丁七六・五％、石斧類二三・五％（太型蛤刃一一・八％、柱状片刃五・九％、扁平片刃五・九％）、また石包丁に対する蛤刃石斧は一五・四％となる。蛤刃石斧は全体のわずか一割、そして石包丁の一割五分にとどまる。

組成率の時間的な変化

時代の限定される八遺跡の石器類を観察した結果、次のような縄文時代晩期～弥生時代後期における組成率の時間的な変化を把握できた。

1、縄文時代晩期では、石包丁が一～二割・石斧類が八～九割程度で、石斧類が圧倒的に多い。また石包丁に対する石斧類は三～五倍にものぼる。

2、縄文時代晩期～弥生時代前期においては、石包丁が三割・石斧

類が七割前後で、石斧類が多い。また石包丁に対して蛤刃石斧は一〜二倍である。

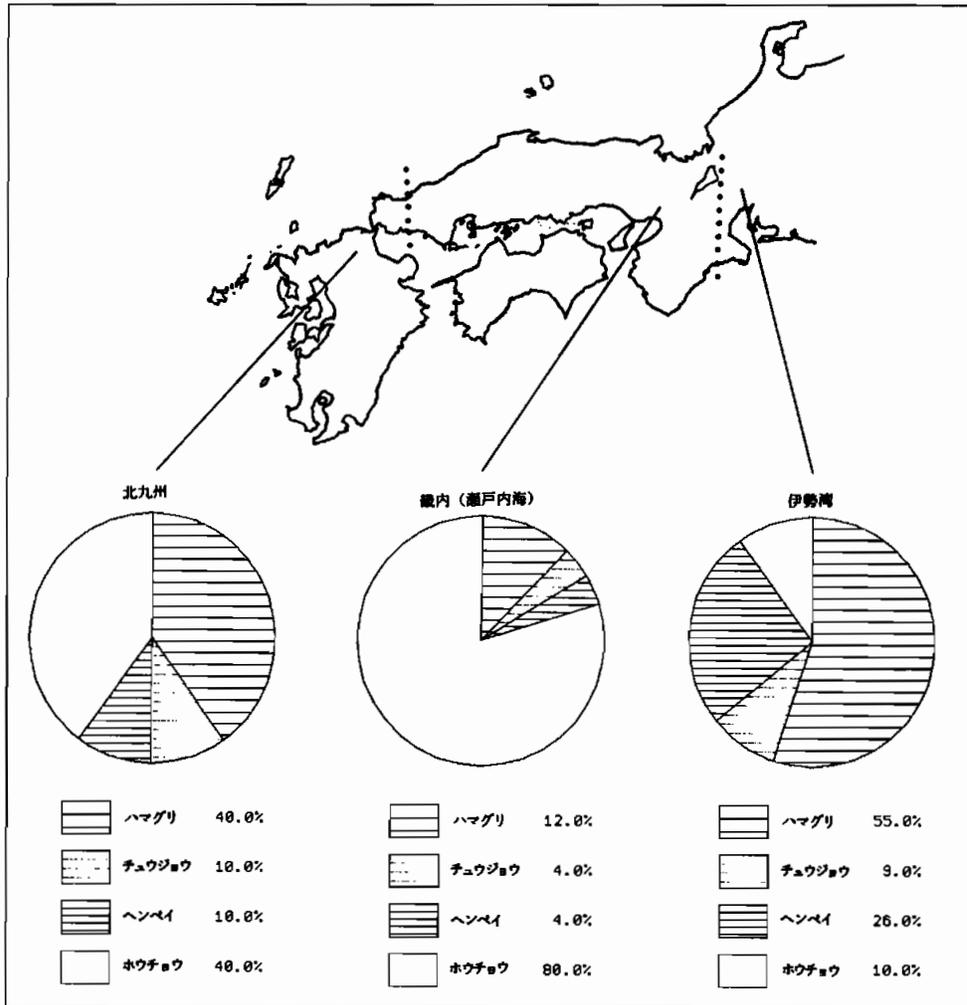
3、弥生時代前期〜中期においては、石包丁が三〜四割・石斧類が六〜七割で、石斧類がまだ多い。また石包丁に対する蛤刃石斧は同数程度となる。

4、弥生時代中期〜後期においては、石包丁が七割・石斧類が二〜三割で、逆に石包丁が圧倒的に多くなる。また石包丁に対して蛤刃石斧は一割五分〜三割程度に少なくなる。

5、その変化の程度は、先の近畿地方中央部および伊勢湾沿岸におけるよりもかなり大きい。

要約

以上、西日本各地の代表的な集落遺跡を観察した結果、弥生時代全体で見れば、石器組成ならびに出土数量について次のような諸モデルを構成できた。



第6図 弥生時代における西日本各地の基本的な石器組成モデル

石器組成 (第6図)

モデル a 「畿内(瀬戸内海)型」

- 1、石包丁が八割・石斧類が二割前後で、石包丁が圧倒的に多い。
- 2、石斧類のなかでは蛤刃が半数強を占め、残りを柱状と扁平の片刃類で分ける。
- 3、石包丁に対する蛤刃は一割六分程度である。

モデル b 「伊勢湾型」

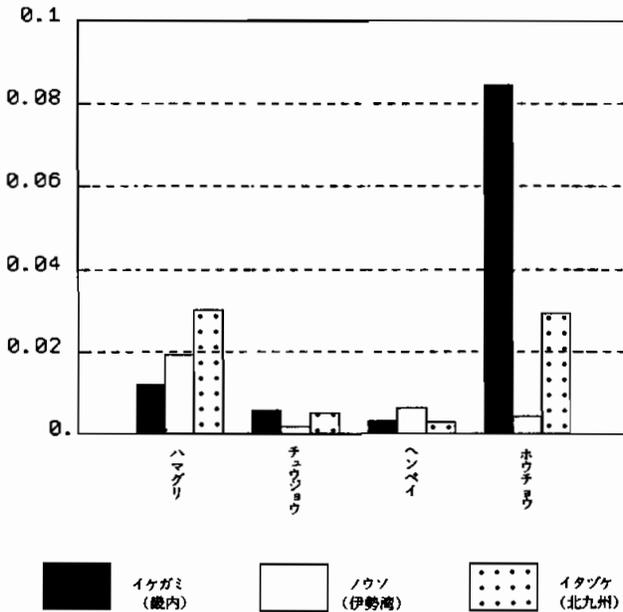
- 1、石包丁が一割・石斧類が九割前後で、石斧類が圧倒的に多い。
- 2、石斧類のなかでは蛤刃が過半数を占め、残りを柱状と扁平の片刃類で分ける。ただし扁平が柱状の三倍程度を占める。
- 3、石包丁に対する蛤刃石斧は四〜八倍程度である。

モデル c 「北九州型」

- 1、石包丁が四割・石斧類が六割前後で、石斧類が多数を占める。
- 2、石斧類のなかでは蛤刃が過半数を占め、残りを柱状と扁平の片刃類で分ける。
- 3、石包丁に対する蛤刃石斧は同数程度である。

単位面積あたりの出土数 (第7図)

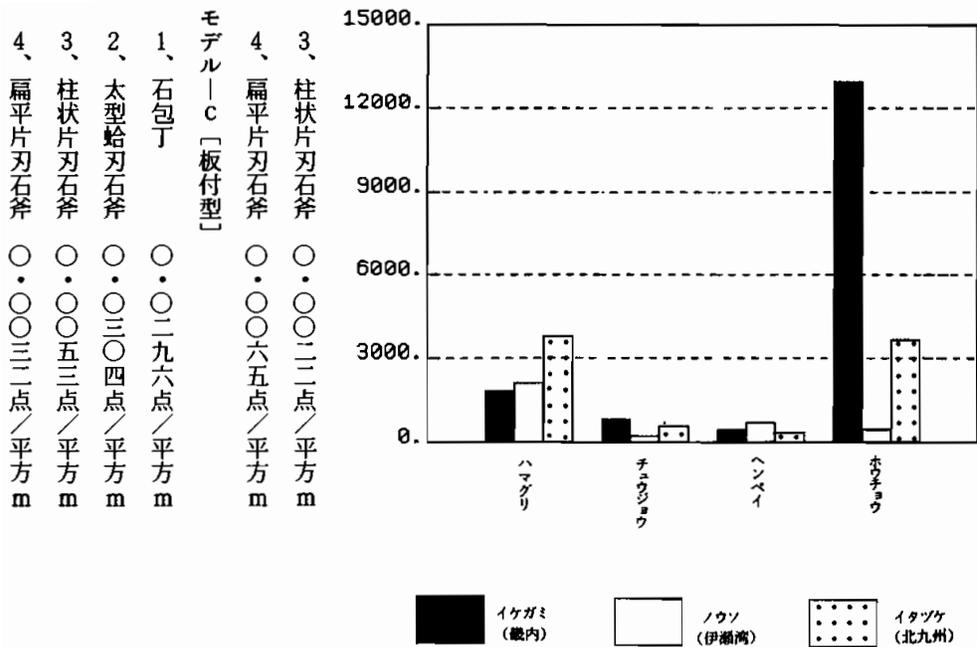
モデル a 「池上型」



モデル b 「納所型」

- 1、石包丁 ○・○八四六点/平方 m
- 2、太型蛤刃石斧 ○・○一二四点/平方 m
- 3、柱状片刃石斧 ○・○〇五九点/平方 m
- 4、扁平片刃石斧 ○・○〇三四点/平方 m

第7図 単位面積 (1㎡) あたりの出土数



第8図 一遺跡あたりの推定出土数

一拠点集落遺跡での出土総数 (第8図)

モデルa「池上型」

1、石包丁 一三〇〇〇点程度

2、大型蛤刃石斧 一九〇〇点程度

3、柱状片刃石斧 九〇〇点程度

4、扁平片刃石斧 五〇〇点程度

モデルb「納所型」

1、石包丁 五〇〇点程度

2、大型蛤刃石斧 二二〇〇点程度

3、柱状片刃石斧 二五〇点程度

4、扁平片刃石斧 七五〇点程度

モデルc「板付型」

1、石包丁 三七〇〇点程度

2、大型蛤刃石斧 三八〇〇点程度

3、柱状片刃石斧 六六〇点程度

4、扁平片刃石斧 四〇〇点程度

組成率の時代的变化

大型蛤刃石斧／石包丁の比率減少として端的に現われる。

モデルa「畿内型」

モデルc「板付型」

3、柱状片刃石斧 ○・○○二二点／平方m

4、扁平片刃石斧 ○・○○六五点／平方m

1、石包丁 ○・〇二九六点／平方m

2、大型蛤刃石斧 ○・〇三〇四点／平方m

3、柱状片刃石斧 ○・〇〇五三点／平方m

4、扁平片刃石斧 ○・〇〇三二点／平方m

- 1、弥生時代前期～中期初頭 三五～五〇％程度
- 2、中期中頃～中期末 一〇％程度

モデルb「伊勢湾型」

確定せず（弥生時代前期に蛤刃石斧が多い傾向あれども良好なデータなし）。

モデルc「北九州型」

- 1、縄文時代晩期 三〇〇～五〇〇％程度
- 2、縄文時代晩期～弥生時代前期 一三〇～二〇〇％程度
- 3、弥生時代前期～中期 九〇～一〇〇％程度
- 4、弥生時代中期～後期 一五～三〇％程度

データ評価の前提

得られたデータに基づいて弥生人の生業行動パターンを復元するについて、次の仮定をする。

- 1、石包丁は稲の穂首の摘みとり具である。
- 2、太型蛤刃石斧は樹木の伐採斧である。
- 3、柱状片刃・扁平片刃の両石斧は材木の加工斧である。
- 4、遺跡出土の石器類ならびにその機能は、そこに住んだ人々の活動内容を現わす。

5、遺跡から出土する石器類の組成は、そこに住んだ人々の活動内容の組合せを現わす。

- 6、遺跡から出土する石器の数量は、それにかかわる活動の量Ⅱ
労働量（人の数や作業時間）を現わす。

7、同一器種の石器一個でなされる作業量は各地とも同じである。

データ評価の問題点

考古学的に得られるデータは主に次の諸点で歪みを受けており、基本的にはそれぞれを検討・考慮して評価がなされるべきである。

- 1、観察者側の問題（観察の対象とする遺跡やサンプリング方法の妥当性、等）
- 2、発掘者側の問題（発掘の精密度や発掘位置の妥当性、等）
- 3、遺跡側の問題（遺跡の削平度合の大小、等）
- 4、遺物使用者側の問題（物品の廃棄パターン・転用や代用品の有無、等）

本稿ではいずれの諸項目についても考慮しておらず、以下の評価はかなりの誤差・歪みを含みこんでいることになる。

結 論

西日本各地の代表的な二十三個所の集落遺跡から出土した石器類（石包丁・太型蛤刃石斧・柱状片刃石斧・扁平片刃石斧）の組成と数量、ならびに先の諸仮定に基づいて、次の結論が得られる。

各地域を代表させて、池上・納所・板付の三遺跡を観察すると

1、一個所の拠点集落でなされる石包丁による稲の穂摘活動の量は、近畿・池上遺跡が最も大きく、伊勢湾・納所遺跡の二六倍程度、また北九州・板付遺跡の三・五倍程度である。

2、一個所の拠点集落でなされる太型蛤刃石斧による樹木の伐採活動の量は、北九州・板付遺跡が最も大きく、近畿・池上遺跡の二倍程度、また伊勢湾・納所遺跡の一・七倍程度である。

3、一個所の拠点集落でなされる柱状・扁平の両片刃石斧による材木の加工活動の量は、近畿・池上、伊勢湾・納所、北九州・板付の三遺跡とも大差ない。ただし、伊勢湾・納所遺跡のみ柱状片刃石斧による材木の加工活動は少ない傾向にある。

4、事例としてあげた三個所の拠点集落遺跡のような実状は、それぞれ当該地域における一般的な活動内容を示唆している可能性が強い。

5、それぞれの特徴を強調し、近畿地方中央部を「穂摘活動主体型」、伊勢湾地域を「伐採活動主体型」、そして北九州地域を「穂摘・伐採両活動型」として一般的に理解できる。

6、各地域とも農耕社会形成期(縄文時代晩期)弥生時代前期)の初期においては太型蛤刃石斧による樹木の伐採活動の比重が相対的に高い。

7、以上の評価については「データ評価の問題点」であげた諸項目により、相当の歪みを受けている。

〔文献〕

大阪・池上遺跡

第2阪和国道内遺跡調査会 一六〇『池上・四ツ池』

一六二『第2阪和国道内遺跡発掘調査報告四』

財団法人 大阪文化財セン 一六六『第2阪和国道内遺跡出土遺物整理事業

タ1 業報告書四』

仮称池上小学校予定地内遺 一六〇『池上遺跡』(池上小学校建設に伴う発

跡調査会 掘調査概要)

奈良・唐古遺跡

小林行雄・末永雅雄・藤岡 一六三『大和唐古弥生式遺跡の研究』(京都帝国

謙二郎 大学文学部考古学研究报告第一六冊)

大阪・鬼虎川遺跡

東大阪市教育委員会 幸本隆裕氏の御配慮により、第七次調査出土資料を観

察させていただいた。

大阪・恩智遺跡

瓜生堂遺跡調査会 一六〇『恩智遺跡』

兵庫・田能遺跡

尼崎市教育委員会 一六二『田能遺跡発掘調査報告一』(尼崎市文化

財調査報告第七集)

兵庫・勝部遺跡

豊中市教育委員会 一六三『勝部遺跡』

大阪・亀井遺跡

財団法人 大阪文化財セン
ター
一九〇「亀井・城山」(寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書)

一九四「亀井遺跡Ⅱ」(寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ)

兵庫・上ノ島遺跡

尼崎市教育委員会・尼崎郷土史研究会
一九五「尼崎市上ノ島遺跡」(尼崎文化財調査報告第八集)

大阪・栄の池遺跡

岸和田遺跡調査会
一九六「栄の池遺跡」

三重・納所遺跡

三重県教育委員会
一九〇「納所遺跡(遺構と遺物)」(三重県埋蔵文化財調査報告三五―一)

愛知・朝日遺跡群

愛知県教育委員会
一九三「朝日遺跡Ⅱ」(本文篇二)

岡山・百間川遺跡

建設省岡山河川工事事務所
・岡山県教育委員会
一九三「百間川兼基遺跡Ⅰ、百間川今谷遺跡Ⅰ
旭川放水路(百間川)改修工事に伴う発掘調査Ⅲ」(岡山県埋蔵文化財発掘調査

報告五一)

広島・大宮遺跡

広島県教育委員会

一九六「大宮遺跡第一次発掘調査概報」
一九七「大宮遺跡第二次発掘調査概報」
一九八「大宮遺跡第三次発掘調査概報」
一九九「大宮遺跡第四次発掘調査概報」

山口・綾羅木郷遺跡

下関市教育委員会

一九六「綾羅木郷遺跡、発掘調査報告第一集」

福岡・板付遺跡

福岡市教育委員会

一九六「板付(市営住宅建設にともなう発掘調査報告一九七)と一九七」(福岡市埋蔵文化財調査報告書第三五集)

福岡市教育委員会

一九七「板付周辺遺跡調査報告書四」(福岡市埋蔵文化財調査報告書第三八集)

福岡市教育委員会

一九六「板付(板付会館建設に伴う発掘調査報告書)」(福岡市埋蔵文化財調査報告書第七三集)

福岡・有田七田前遺跡

福岡市教育委員会

一九三「有田七田前遺跡(有住小学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告)」(福岡市埋蔵文化財調査報告書第九五集)

福岡・曲田遺跡

福岡県教育委員会

一六四「石崎曲り田遺跡Ⅱ（中巻）」（今宿バイ

パス関係埋蔵文化財調査報告第九集」

佐賀・菜畑遺跡

佐賀市

一六三「菜畑」（佐賀県唐津市における初期稲作

遺跡の調査）

福岡・十郎川遺跡

住宅・都市整備公団

一六二「十郎川」（福岡市早良平野 石丸・古

川遺跡）

福岡・鹿部山遺跡

日本住宅公団

一六三「鹿部山遺跡」（福岡県粕屋郡古賀町所

在遺跡群の調査報告）

福岡・北牟田遺跡

福岡県教育委員会

一六五「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査

報告」

佐賀・千塔山遺跡

基山町遺跡発掘調査団

一六六「千塔山遺跡（弥生環濠集落・古墳・中

世墳墓の調査）」

福岡・赤井手遺跡

春日市教育委員会

一六〇「赤井手遺跡（福岡県春日市大字小倉所

在遺跡の調査）」（春日市文化財調査報告